

第2回 北村山地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会
各委員から事務局にいただいた意見（概要）

1 これからの時代や社会で求められる資質や能力はどのようなものと考えられるか。

- ・ 人から指示されたことだけをやる人間を社会は求めている。
- ・ 創造力・協調性が必要である。
- ・ 生活力・生き抜く力を持った人間が求められている。
- ・ 自分を客観的に見ることができる能力が大切。
- ・ 社会性を身につけた人材。基本的な素質に欠けた人材は社会で通用しない。
- ・ 激動の時代、どのようなアクシデントにも柔軟に活路を見いだす力をもつ者。技巧的な事だけでなく、自分をとりまく社会や環境にも目を向けられる視野を持ち、身近な仲間を大切にできる心があること。ふるさとや、自分の属する組織を大切にできる心を持つ人材、コミュニケーション力、コラボレーション能力なども大切になってくる。
- ・ 社会変動がめまぐるしい、しかも殺伐とした世の中で、人間として正しく生き抜く力を育てることが最も大事と考える。それには、日ごろの学習の他に、部活動等に積極的に参加し、規律正しい生活をしながらの人間形成が大切か。さらに、これからの社会は、創造性豊かな人材を望んでいる。
- ・ 「考える力」として、自ら学び、考え、行動する能力が必要である。また、「思いやりの心」を持ち、地域社会の構成員としての自覚と協調力も必要である。
- ・ 専門的な知識・技術はもちろん必要ではあるが、基盤となるのは、健康な心と体であると思う。小学校・中学校・高校の「いのちの教育」に流れるものは、同じである。
- ・ 「求同求異」という言葉がある。この問いは「求同」であり、地域（北村山）に関係なく、（高校）教育の普遍の課題である。まずは、5教振に示す山形県の（高校）教育の目標から、「知徳体が調和し、「いのち」輝く人間」、「自己実現を図る人間」、「郷土の発展を担う人間」が考えられる。

次に、「変化の時代と社会を生きる力（で共生できる力）」を挙げたい。具体の要素としては「想像力・思考力」、「想像力・表現力」、「意欲・実行力」、「関係性(関わり)に対する積極性」ということになる。

2 この地域の産業やまちづくりなどの観点から、どのような人材が求められているのか。また、今後どのような人材が求められると考えられるか。

- ・ 精密機械メーカーの進出が多いので繊細な技能を持った人材と創意工夫する能力に秀でた人材が求められていると思う。
- ・ 技術を身につけた人材。(各種資格など)
- ・ この地域に愛着を持った人材。
- ・ 産・学・官で連携して地域の活性化を求めている。それに応じられる人材が必要。
- ・ 基本的に実直で忍耐力のある人材を好む土地柄であるため、これからはそうでない大胆で明朗な人材など多彩な人材が必要になってくると思われる。また組織の中にあっては、それぞれの調和を保ち、個々の力をひきだすリーダーとなりうる資質がほしい。
- ・ 地域を離れて進学や就職をした場合、地域の自慢を語りたくなるものです。地域の行事やボランティアに参加させ、地域のことをより多く知ること大切と思われまます。例えば徳内ばやし、東沢公園でのボランティアはとてもよいことと思われ。
- ・ 地域の良さ、課題を把握し、地域を活性化するためのやる気(情熱)、創造性、実行力のある人材。」
- ・ 工業系の知識を習得した人材。
- ・ 自らを律し、他人と協調できる人材。
- ・ 地域の人、もの、ことに関心を持つ人材。
- ・ この場合は「求同求異」の「求異」であり、「準備教育」ではなく「完成教育」の内容そのものである。普通教育に対して専門教育や総合学科にどのような内容を設けるかということである。主に、第1次及び第2次産業を担う人材養成を「完成教育」(専門教育)として行うべきと考える。

3 この地域の高校教育に課せられている人づくり（人材育成）の課題としてどのようなことが考えられるか。

- ・ 高校教育とは、小・中・高の12年間でほぼ完成された人格を社会に送り出す最終章であることを認識し、自分の進むべき道が見つけられずにいる生徒に多様な選択肢を示すことが大切であり、入学しても途中から進路を変更できるシステムをつくるべきと思う。（学校内だけでなく、他校への移籍も含めて）
- ・ 教師からの一方的な授業だけでなく、生徒同士で大いに議論させて、自分の考えをきちんと相手に伝えられる能力を身につけさせてほしい。
- ・ コミュニケーション能力の育成、組織、仲間を大事にする教育が大事。地域の文化や風習、特徴を理解し、ありえない有事に対して的確な判断と行動ができるように。世界が一変した時に自分のとりまく自然、地域、仲間と共にたくましく生きるための訓練が必要。
- ・ 現在は、労働基準局を経由して地元の高校から依頼され、生徒の企業訪問や体験をさせてもらうシステムが確立されている。その時各企業では、会社案内と、作業状況の他に、どういう社員を求めているかを説明する。入社すると早く一人前になるように教育するが、覚えた頃に退職されるのは非常に困る。転職をしても、やっぱり前の会社の方がよかったという人もたくさんいる。我慢強さ、協調性を育成すべきと思う。
- ・ 夢と目標をもって進学する子どもたちであるが、最初の志、やる気をなくしてしまい、中途退学したり、勉強をしない高校生が見られる（特に普通高校）。進路指導や生徒指導にかかわっての中学校との連携や、情報発信がもっと必要であると思う。
- ・ 「開かれた学校」をさらに推進していく必要があると思う。地域の中の学校として地域の中で高校生を育てる視点を持って「社会力」をつけてほしい。それが、社会に貢献できる人材育成につながるのではないだろうか。
- ・ もっと特色のある学校への脱皮が必要。偏差値での進路指導より、個人の特性、能力、将来への希望等に応じた学校の特色や、先生との相性も考慮したものであってほしい。そのためには先生方の異動に伴い転校等も考えられるのでは。
- ・ <求同>では、山形県の（高校）教育の目標そのものであり、「キャリア教育」を確実に推進することだと思う。小・中学校との一貫性・整合性も担保される。「まなび」を通して自立をめざすために、キャリア教育の推進が必要である。
　　<求異>では、何をめざす高校生に係る人材育成かが問題となる。地域性の観点からキャリア教育を考えることになるのではないか。その場合やはり、「完成教育」・専門学科（専門教育）の問題になっていく。生徒の学ぶ意欲や教師の指導力の向上の対策が必要と考えられる。